



令和4年度
YAすたっふを募集します！

YA（ヤングアダルト）は子どもと大人の間、13～18歳くらいの若者のことです。
YA（ワイエー）すたっふは、図書館ボランティアとして10代向けイベントの企画・運営やPOPづくりをしたり、お互いの好きな本を語り合ったりしています☆

令和3年度は、8月に謎解きイベント「怪盗Rをとめろ！」の企画・準備をしました！（活動の様子は図書館HPをチェックしてね→<https://www.library-kunitachi.jp/youngadult/>）

本が好きな人や図書館が好きな人、イベントの運営などに興味のある人、応募をお待ちしています！
まずは見学してみたい、という人も大歓迎です。

- 対象 市内在住、在学の中学生以上の10代の人
活動日 毎月1回程度。翌月の予定をみんなで相談
活動場所 中央図書館、北市民プラザ、Zoom
第1回活動日 5月15日（日）10～12時
応募方法 中央図書館へ電話、または来館
問合せ・申込み 中央図書館 042-576-0161

★★★★★ YA すたっふのおすすめ本！ ★★★★★



不安を抱えている主人公が、元気を取り戻す物語。
あなたもきっと、
行きたくなるはず！

『保健室経由、かねやま本館。』
(松素めぐり：著/講談社/2020.6)



「伝説」は本当なのか!?
フクロウ世界の支配をたくらむ組織との戦いがはじまる—
シリーズありす!

『ガフルの勇者たち 1 悪の要塞からの脱出』
(キャスリン・ラスキー：著 食野雅子：訳/ KADOKAWA/2018.11)



“愛される”とは何か？家族から愛されることが幸せなのは全ての人のあてはまることなのか？
読むと、本当の愛について考えさせられます。

『愛されなくても別に』
(武田綾乃：著/講談社/2020.8)



悩みや苦しみを抱えた主人公の成長物語!!
登場人物達の言葉が心に響きます
アタタの悩みや下らない常識もふっこわしてくれる!

『妖怪アパートの幽雅な日常』
(香月日輪：著/講談社/2003.10)

一日で読めそうな本

チーム・えんのした presents



「チーム・えんのした」：古本リユース事業などを通じて「本と人とをつなぐ」ことを目的に活動している一橋大学公認サークルの企画です。メンバーが書いた紹介文といっしょに本を展示しています。中央図書館1階のYAコーナーをのぞいてみてください。

※メンバーの皆さんには、作業中はマスクを着用していただきました。



『翻訳できない世界のことば』
(エラ・フランシス・サンダース：著
/前田まゆみ：訳/創元社/2016.4)

うまく言語化できない、各国固有の意味合いを持つことばを集めた本です。GURFA/片方の手の平にのせられるだけの水の量、FEUILLEMORT/枯葉のように色が薄れてゆく、などなど…。一つ一つのことばを眺めると新しい発見があったり、懐かしい感覚を思い出したりと時間を忘れて読み進めたくくなります。「木漏れ日」や「積ん読」といった日本語も紹介されています。ぜひ自分のお気に入りのことばを探してみてください。



『華氏 451 度』
(レイ・ブラッドベリ：著/
伊藤典夫：訳/早川書房/2014.6)

華氏 451 度とは、紙が自然発火する温度のことです。有害な情報をもたらし、人々を考えさせ苦しめてしまうもとして本の所有が禁止され、代わりに壁に映し出されるテレビスクリーンやラジオがもたらす快楽に人々が夢中になっている社会。隠れて本を持つ人の家や本を燃やす職業「ファイアマン」に従事する主人公・モンターグは、不思議な少女との出会いと会話を経て、自らの仕事に疑問を持ち、考えるようになります。「ファイアマン」でありながら密かに本を読み始めた彼に待つ未来とは。娯楽に夢中になり思考すること、記録することをやめた人々がもたらす全体主義の世界を描き出した一冊。

上記の本は、くにたち図書館に所蔵しています。貸出中の場合は、予約をしてね☆



『きみの友だち』
(重松清：著/新潮社/2005.10)

「ほんとうの友達って何だろう?」「自分は友達だと思っているが、相手は自分のことをどう思っているのだろうか?」これらの疑問は子供の時も、そして大人になってからも自分の心から消えることはないでしょう。この小説は一つの答えを提示してくれます。本を手にとった時、一気に読むには少し分厚く感じるかもしれませんが、しかし、気づいたときには、この物語に、そして登場人物たちに夢中になっているはずですよ。



『日日是好日』
(森下典子：著/飛鳥新社/2002.1)

最近茶道を始め、先生に勧められて読んだのですが、比喻が巧みで引き込まれました。軽いエッセイなので読みやすいですし、明日誰かに話したくなるような豆知識もたくさん載っていて楽しい一冊です。一雨の音は、葉っぱの若さの音なんだ! 六月の雨音は、若い葉っぱが雨をはね返すから熱帯雨林を思わせる元気な音。十一月の雨は、葉っぱが枯れてしまっているから、しおしおと淋しげー。大人による無邪気な気づきが光っていて好きな一節です。

